

2020年9月28日

東海旅客鉄道株式会社
新幹線鉄道事業本部関西支社
支社長 畑田 整吾 殿

J R 東海労働組合新幹線関西地方本部
執行委員長 小林 國博

2020年度職場改善諸要求の申し入れ（車両所関係）

私たちは、これまで諦めることなく申し入れにより会社に労働条件の改善を求めてきたが、未だに職場には改善されない様々な問題が山積している。このままでは、組合員の安全・健康を脅かすことになり、労働組合としても放置するわけにはいかない。

よって、組合員が安心して働ける労働条件を求めて、大阪修繕車両所、大阪仕業検査車両所、大阪交番検査車両所、大阪台車検査車両所の職場改善の諸要求を以下のように申し入れるので、早急に団体交渉の場を設定すること。

記

I. 各車両所共通の改善要求について

1. 安全・労働条件について

- (1) コロナウイルス感染防止の為にマスク・消毒液等、現場に配備すること。
- (2) 事故や不具合が発生した場合に、関係社員に事情を聴くことは仕方ないが、当事者でない限り時系列報告書の強要はやめること。
- (3) 責任事故・ヒューマンエラーを起こした社員に行う「復帰教育」を直ちにやめること。
- (4) 「復帰教育」で行われる「見極め試験」に合格した社員は、直ちに復帰させること。
- (5) 見習者への指導者は、現在、見習い終了したての社員により行われている場合が見受けられる。指導者は確実な技術継承を目的として各担務に精通したベテラン社員とすること。
- (6) 新入社員の未経験者に、B担務（検査担当）を指定しないこと。
- (7) 配備されている自転車の点検・整備は誰が責任をもって行うのか明らかにすること。また、使用者が行うとなれば安全上問題があるので業者に点検・整備させること。

2. 設備・環境について

- (1) 熱中症予防のために「スポーツ飲料」を数量限定せずに現場詰所に置き社

員が飲めるようにすること。会社は、昨年の業務委員会で、「防暑対策は、各職場に対応可能な対策を実施してきたところである。従って、スポーツドリンクを配布する考えはない。」と回答しているが、昨今の酷暑に対する防暑対策は、まだまだ不十分であると考え。各職場の環境を考慮し、社員が要求する防暑に対する意見をくみ上げ対応すること。

3. 勤務について

- (1) 職務に服するための着替え時間及び昼休憩後の移動時間を労働時間内に含めること。
- (2) 年休を最優先とし、年休を抑制する見習いと出張はやめること。
- (3) 勤務時間外の勉強会を超勤扱いとすること。
- (4) 昇進試験の取扱いは、自己の時間とせず勤務時間扱いとすること。
- (5) 職場での本人意志を無視したプロジェクト「OneSTEP」への参加強要をやめること。
- (6) 強制される個人業研をやめること。

4. 通勤について

- (1) 社員が希望する通勤手段・通勤経路を認めること。
- (2) 会社は10月に行う車通勤者の「駐車場抽選」に関する掲示でJR社員用の割り当ては約40台としているが私たちの調査では全体で226台分のスペースがありJR社員用として約90台分の駐車が可能であると考え。また、以前の労使協議で会社は「協力会社に割り当てた分はヨソの会社のことなので関与できない」としているが、あれだけJRから管理者が出向していて人事交流も行っていてJRの一部署のような扱いをしていて、都合のよい時だけ「ヨソの会社」というのはおかしい。協力会社と調整して十分な駐車台数を確保し希望する社員全員が車通勤できるような状態に近づけること。
- (3) 出勤時は、自転車・単車・自動車の車両所構内の通り抜けを認めること。
- (4) 駐輪場のバイクスペースを拡大すること。
- (5) 茨木バスターミナルに屋根を設置すること。
- (6) 通勤時の背広強要をやめること。
- (7) 災害等で帰宅困難者に対し情報の伝達や会社の対応を明確にすること。また、交通抑制や計画運休が発生した場合は、交通機関が停止するまでに、社員を勤務開放すること。

5. 福利・厚生について

- (1) 会社が主催するレクリエーション活動での事故・怪我は労災扱い同様の処置とすること。
- (2) 社員食堂で「実質値上げ」が行われている。鳥飼食堂の運営に対して社員

にアンケート調査を行い早急に対応すること。また、食堂前の休憩所を拡大し、食堂内にも TV を設置すること。

6. 庁舎環境について

- (1) 総合庁舎の事務所棟 6 階風呂の入浴規制時間を撤廃し、勤務時間外であればフルタイムで入浴できるようにすること。
- (2) 総合庁舎 9 階の風呂（車両所用）を停止する理由を明らかにすること。
- (3) 6 階男性用トイレを増設すること。
- (4) 混雑解消と健康面から庁舎階段を使用可とすること。
- (5) 全社員に緊急時の避難訓練を行うこと。また災害・緊急時の避難箇所を明らかにすること。

II. 大阪修繕車両所に関する改善要求について

1. 設備・環境について

- (1) 詰所・更衣室・ワーキングルームの時計をすべて電波時計に変更すること。
- (2) 更衣室・待機室兼食堂は蛍光灯が少なく暗いため蛍光灯を増設すること。
会社は、昨年の業務委員会で、「LEDの補助照明を増設しており、現状で対処されたい。」と回答しているが、現在、故障により撤去されたままとなっている。早急に対処されたい。
- (3) 待機室兼食堂に流し台を設置すること。また、消臭のための換気扇を設置すること。
- (4) 待機室兼食堂に製氷機と IH クッキングヒーターを設置すること。
(IH クッキングヒーターは、お茶を作るために使用するもの)
- (5) 検修員詰所にヘルメットと安全靴用のロッカーを設置すること。また、現在設置されているヘルメット置場の消臭のため換気扇を設置すること。
- (6) 臨修庫にシャワー設備を設置すること。
- (7) 臨修庫に空調設備付の打ち合わせ室を設けること。
- (8) 臨修庫及び研削庫の鳥を駆除すること。また、糞害防止すること。
- (9) 仕業庫東方に作業表示灯を設置すること。
- (10) 仕業庫サービスデッキの転落防止チェーンの取外し、取付けが容易なものに取替えること。
- (11) 仕業庫 0 番線から 3 番線までのピット溝の排水をすること。
- (12) 仕業庫での作業において庫 6 番線や庫 7 番線はピットの床が高く作業性が悪い。また、無理な姿勢での作業になるので、床下作業は庫 0 番線から 5 番線までの作業とすること。
- (13) 修繕車両所の作業は、基本的に臨修庫での作業を基本とし、臨修庫の入出庫をスムーズに行い修繕作業の時間を確保すること。(運転本数増大に伴い鳥飼基地構内の入換作業が多くなり、臨修庫の入出庫に時間がかかっている。)

- (14) 西電留線や東電留線での作業をやめること。(昨今の運転本数増大に伴い鳥飼基地構内の入換作業が多くなり、臨修庫の入出庫に支障がきたしているため、西電留線や東電留線での作業が多くなっている。西電留線や東電留線での作業は線路横断や工具及び車両部品の運搬による労働災害の発生が懸念されるため。)
- (15) 作業用自動車を5人乗りの荷物が積めるミニバンにすること。
- (16) 作業で使用するカップや安全チョッキは汚れや傷み具合に関係なく1年に1回更新すること。
- (17) 夏用の作業着(ツナギ服)を貸与すること。
- (18) 半年毎に軍手1ダース、軍足6足を貸与すること。
- (19) 洗濯機を全自動タイプ(洗濯から乾燥まで)に更新し、設置台数を増やすこと。また、故障した際は、速やかに修理・取替を行うこと。

Ⅲ. 大阪仕業検査車両所に関する改善要求について

1. 労働条件に関する改善要求について

- (1) SEK との契約内容を明らかにすること。
- (2) SEK 担当の修繕業務は終了まで SEK が責任を持って完了させること。
- (3) SEK 担当は車内検査担当であるため、報告書等も責任施工にすること。
- (4) 8月に御勇退された主にG担当をされていたSEK担当者の代わりとして職名の異なる主任職にない担当者が指定されている。今後は主任職にないSEK担当者もG担当を行わせるのか明らかにすること。
- (5) 仕業・申告の作業と修繕車両所の作業区分を明らかにすること。

2. 仕業庫等の設備改善要求について

- (1) 仕業庫2番線海側及び3番線山側のサービスデッキ下のパイプやアングルは13号車から16号車付近までは地上から180cm位の高さになっているが、1号車から12号車付近では160cm位しかなく、側検査を行う際に非常に危険である。労災防止の観点から早急に改修すること。
- (2) 熱中症予防として仕業・申告現場作業詰所内に冷水器を設置すること。
- (3) 仕業庫の床下点検通路の清掃・整備を毎月行うこと。
- (4) 仕業庫の床下点検通路の蚊等の害虫駆除について「害虫駆除については適切に行っている」との回答を以前に行っているが今年も害虫が発生している。管理者にも申し出ているにも関わらず全く改善されていない。早急かつ定期的に駆除すること。
- (5) 仕業庫の床下点検通路の排水不良について「修繕等は必要な都度実施している」との回答を以前に行っているが、管理者に申し出ているにも関わらず全く修繕が間に合っていない。床面に水が溜まり滑って危険である。早急に修繕すること。
- (6) 点検通路に設置されている汚物処理のための排水設備周辺並びに床下点

検通路に溜まっている排水等は汚物等が混入しているが衛生面で検査・管理されているのか明らかにすること。

- (7) 仕業庫内のカラスの駆除について「カラスの駆除は定期的に行っている」との回答を以前に行っているが、管理者にも申し出ているにも関わらず、まだまだ間に合っていない。停電事故等も想定される事態であり早急に駆除すること。特に、仕業庫の点検通路にはカラスの糞が散乱している。衛生面からも早急に対策を行うこと。
- (8) 仕業庫天上照明や仕業線の各ピット内蛍光灯の切れが数十か所ある。庫7番線においてはNFB落下による滅灯が数十メートル渡っている箇所すらある。労災防止のためにも早急に修繕すること。また、LED化すること。
- (9) サービスデッキ下部にコンクリートが腐食し、鉄筋が剥き出しになっている箇所が見受けられる。早急に調査・修繕すること。
- (10) 庫7番線のピットが低いため、検修車の乗り降りが困難であり、怪我等の労災も考えられる。ピット床面を掘って低くするか、検修車を改修すること。これができなければ、庫7番線を仕業検査対象番線から除外すること。
- (11) 仕業庫の修繕、改修が進んでいない状況を鑑み、修繕計画と予算を明らかにすること。

3. 貸与品、福利厚生等の改善要求について

- (1) 軍手、軍足は社員が必要とする数を貸与すること。
- (2) 軍手、軍足の貸与については、大阪仕業検査車両所ではその都度交換方式となっているが、事業所毎で、年間の貸与数、貸与方法が違うのか明らかにすること。

4. その他の改善要求について

- (1) 大阪仕業検査車両所の仕業・申告班で使用している携帯電話はカメラ機能が制限されており、カメラが使用できない状態ある。現在は遠い号車（作業現場）と詰所等との連絡・打ち合わせなどで写真が必要な時や写真で状況を説明する時などは一旦、詰所まで帰り、デジカメを持ち出して映し、また、詰所に帰ることとなり、大変手間がかかっている。よって、携帯電話のカメラを使用出来るようにすること。
- (2) 大阪仕業検査車両所の仕業・申告班では当直からくる作業指示書等はファックスで送れてきている。よって添付されている写真等は大変わかりにくい。また、現場詰所でパソコンで作成した写真入りの故障報告書等を当直にファックスで送るが、わかりにくく、保存ができないため、結局、SDカードに取り込んで、それを持っていくという状況である。よって当直と現場詰所をファックスではなく LAN ケーブル等で結んで、パソコンやプリンターで写真等がきれいに送信できるようにすること。

- (3) 数年前から VCB スイッチの誤扱いが多発している。社員への注意喚起や手順書の変更、指差確認喚呼等だけでは有効な対策になっていない。よって VCB スイッチの色を変更、ブザーや予備等切替スイッチ等を使用しているような「カマシ」を VCB スイッチにも付けるなど車両改良し、ハード面でも対策を取られたい。

IV. 大阪交番検査車両所に関する改善要求について

1. 業務内容について

- (1) 庁舎 4 階で始業点呼後、現場詰所でタブレットのチェックシートを準備し作業場所の工具ロッカーに着く前に班長の作業開始の放送がかかることがある。これは、十分な準備時間が設けられていないためである。
- ① 作業ダイヤの見直しを行い準備時間の確保をすること。
 - ② 昼休憩明けの P 交のかかりも、まだ休憩時間中にサインしてタブレットを受け出し、紛失防止のため詰所に置くようになった検査ハンマーを持ち出し作業場所に向かっている。移動時間を労働時間とすること。
 - ③ 詰所から遠い 1, 4 ユニットの B・C 担当全員に自転車を配備すること。
- (2) 作業遅れで E 交の機能検査時、となりのサービック作業で電車を加圧するが、台車の相互チェックの際声を張り上げないと聞こえない。加圧した場合「喚呼」を省略すること。
- (3) A 交・E 交で作業遅れが発生した場合、管理者が現場詰所に来て休憩変更や超勤対応の指示を行うこと。また、アリス未確認のまま終業点呼に行くよう指示しているがアリスの確認までが交番検査ではないのか考え方を明らかにすること。
- (4) 2007 年から「データ取り」として行っている「連続換気装置調整」については「65mm 固定」とすること。また、65mm 固定ではどのような不具合があるのか「データ取り」に協力している社員に明らかにすること。

2. 設備・その他について

- (1) 社員はどれだけ汚れて作業しているのか理解しているのか。現場更衣室に洗面所と鏡を配備すること。
- (2) 食堂を運営している業者が実質値上げをしている。コロナ禍の中でより現金に触れるカードから食券の券売機に変更するなど社員の不満は多い。食堂利用に関して社員へのアンケートを実施すること。
- (3) 庁舎 2 階の人通りの少ないところにある JR 東海労と JR 東海ユニオンの組合掲示板を 3 階の食堂前通路に移設すること。

V. 大阪台車検査車両所に関する改善要求について

1. 基本要求について

- (1) 始業点呼を6階事務所棟で行うこと。
- (2) 輪軸・台車グループ間の交流を活発化させ技術力向上に向け努力すること。
- (3) 現在様々な教育を勤務時間内で行っているが、行程白紙日でやること。
- (4) 各職場に事務担当社員を配置し、事務処理用パソコンを設置すること。また手待時間でも手続きが出来るようにすること。

2. 防暑・防寒対策について基本要求について

- (1) 現場に詰所を設け冷暖房の充実化すること。
- (2) 台車組み立て・中修上の屋根に防暑塗装を施すこと。

3. 設備・環境について

- (1) 総点呼、仕業点呼は事務所棟6階で行なうこと。
- (2) 年休を最優先とし、年休を抑制する見習いと出張はやめること。
- (3) J職群の検査業務就労者の選定理由を明らかにすること。
- (4) 勤務時間外の勉強会を超勤扱いとすること。
- (5) 会社が主催するレクリエーション活動での事故・怪我は労災扱い同様の処置とすること。
- (6) 昇進試験の取り扱いは自己の時間とせず勤務時間扱いとすること。
- (7) 職場での本人意志を無視したプロジェクト参加強要をやめること。
- (8) 強制される個人業研をやめること。
- (9) 技術力向上の観点から活発な輪軸・台車グループの交流をはかること。
- (10) 希望する社員全員に特殊技能資格(フォーク・電気・ガス溶接・クレーン・砥石取り扱い・有機溶剤等々)の教育資格を与えること。
- (11) 点呼時の制服を夏服、冬服と強制せず作業に即したものにすること。
- (12) 始業点呼時間は総点呼も含め5分以内とすること。
- (13) 大修職場の軸パレット移動用ローラーを自動搬送とすること。
- (14) 中修検圧作業場の冷房能力を強化すること。
- (15) 社員の健康管理のため、資材庫、新検修庫の屋上をキャッチボール、テニス等できるよう改修すること。
- (16) 転勤者の挨拶及び各種表彰は終了点呼前に行うこと。
- (17) 事務所棟内フラパーゲートを撤去すること。
- (18) 新入社員の玉かけ・クレーン資格は学園教育の一環として資格を取らせること。
- (19) 天井クレーンの免許取得を要請すること。
- (20) 事務所棟内フラパーゲートを撤去すること。

以上